

乳児保育、3歳未満児の保育に関する論点（例）

乳児・3歳未満児の保育の意義の位置づけについて

- 乳児・3歳未満児の時期は、自己が形成され、他者との関わりを初めて持つなど心身の発達に重要な時期であり、この時期の保育の在り方は、その後の成長や社会性の獲得、自己肯定感の形成等に大きな影響を与えるものと考えられている。こうしたことを踏まえ、乳児・3歳未満児の保育について、より積極的な位置づけが必要ではないか。
- 現行の指針では、乳児・3歳未満児に関する保育の記載が3歳以上児に比べて少ないほか、関係する内容が各章に点在していること等について、何らかの見直しが必要ではないか。

乳児・3歳未満児の保育（養護及び教育）の内容について

- 乳児・3歳未満児の発達段階の特性を踏まえつつ、「応答性」の重要性や家庭での保育や子育てとの連続性、集団的なふれあいの中での遊びや生活、これらのための適切な環境の在り方など、具体的にどのような内容を規定すべきか。
- 保育士との愛着や信頼関係の形成や基本的な生活習慣の獲得が重要視される乳児期や、他の子どもとの関係性の構築や言葉の獲得などが重視される低年齢児期など、どのように年齢の区分を考えるべきか。
- 乳児・3歳未満児の保育では、特に養護と教育との一体性が強く、養護的な側面が強く意識される一方で、教育的意義については誤解も根強く見られること等を踏まえ、どのように教育について規定すべきか。
- 3歳以上では「教育の5領域」が着目される傾向があるが、養護は保育活動全体を通じて重要なものであり、どのように養護について規定すべきか。

その他

- 3歳未満における保育から、より集団的な3歳以上の保育への移行をスムーズに行うために、どのような方法が考えられるか。
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」との整合性を、どのように確保していくべきか。